



特集 辞書指導と語彙指導



◎実践紹介◎——『プラクティカル ジーニアス英和辞典』

『プラクティカル ジーニアス』は実に practical である

小澤幹生



■高校入学時における辞書選択

高校入学時に購入する英和辞典として、紙の辞書か電子辞書かという選択がある。持ち歩きのしやすさと複数辞書検索が電子辞書の最大の強みであるが、画面表示の狭さを補うためか、検索結果が階層構造で表示されるため、一覧性に難がある。じっくり腰を据えて学習する際は、重さは関係ないし、高校入学時点では、複数辞書検索するよりも、一つの辞書で語義・用法をしっかりと確認の方が大切である。良質の辞書が電子辞書に収録されている場合もあるが、それは本来紙の辞書を想定して編集されたものであり、階層構造の最初の画面だけを見ていたのでは、宝の持ち腐れである。

他校の多くと同様に、本校でも入学前に推薦辞書を提示し、事前に購入してもらうのだが、上位版の『ジーニアス英和辞典』を薦めてしまうと、中に収録されているから同じだろうということで、電子辞書を購入してしまう可能性がある。そこで候補に挙がったのが『プラクティカル ジーニアス英和辞典』である。語数こそ上位版に譲るが、高校の初歩学習で使う辞書としての工夫が随所にある。一部フィクションを交えて、授業時におけるその活用状況を以下に再現してみることにする。なお、私が1学年を担当する際に、『プラクティカル ジーニアス』を、推薦ではなく指定の辞書にしてもらった。授業時に辞書を積極的に活用するには、全員が同じ辞書を持つことが不可欠だと判断したからである。参照してほしい箇所をページで指示できるという利点もある。

■授業時の具体的な活用例

①教員「『トイレを貸してください。』を英語にしましょう。A君、どうぞ。」

生徒A「May I borrow the toilet? ですか。」

教員「文の構造はいいですね。でも、2箇所直した方がいいですね。まず、辞書の1610ページを見てみましょう。『トイレ』は確かに toilet ですが、直接的に響くから bathroom の方がいいですね。次に184ページを見てみましょう。赤い囲みの〈使い分け〉の箇所にあるとおり、borrow は動かせるものを借りるときに使います。トイレの場合は use を使うんです。この場合 borrow は駄目だと×がついているでしょう？」

②教員「B君、7行目の“Radioactive waste”で始まる英文を訳してください。」

生徒B「ラジオ活動のゴミが……」

教員「それでは文脈に合わないでしょう。辞書で確認してみましょう。1247ページ。放射性廃棄物のことですね。では、ついでに、1930ページ、〈語要素一覧〉の radio- も見てみましょう。radio- は放射線、または無線に関する語の最初につくことが多いんです。語要素を多く知っておくと、語の意味の見当がつけやすいんです。」

③教員「Cさん、『多くの家具があります。』を英語にしてください。」

生徒C「There are many furnitures.」

教員「どうでしょうか。まず631ページを引いてください。furniture は集合名詞で単数扱いです。集合名詞がわからないですか。では、〈文法のまとめ〉の1902ページ、集合名詞の項目を見て

ください。君の答えは残念ながら、×のついた誤りの代表例と同じでしたね。気をつけましょう。」

④生徒 D 「I was exciting at the game.」

教員「excite の使い方はそれでいいかな。531 ページで確認してみましょう。まず、動詞 excite は『興奮させる』ですね。それが exciting になると『他人を興奮させるような』という意味の形容詞になり、excited だと、『本人が興奮した』という意味になるんです。この場合、主語の人が興奮しているんだから、excited が正解です。例文もあるでしょう。電子辞書だとこれらが一度に参照できないし、例文は〈用例ボタン〉を押さないと出てこないから、かなり不便ですね。」

⑤教員「黒板を見てください。E さんは『小澤先生』の箇所を“Ozawa Teacher”と書きましたが、これはどうでしょうか。辞書の1563ページを見てください。teacher の下、赤い囲みの〈語法〉欄です。英語としては、“Mr. Ozawa”が正しいですね。」

このように折に触れて授業時に辞書で確認していけば、巻末の〈語要素一覧〉、〈文法のまとめ〉の存在が認識できるし、家庭学習時にも適宜活用してくれることになる。電子辞書には単語の音声収録を売りにしている機種も多いが、〈発音のてびき〉欄を利用して発音記号の読み方の指導ができていれば、紙の辞書でも大丈夫である。『ジーニアス』レベルの辞書になると、高校生向けの巻末付録がつかないが、『プラクティカル ジーニアス』だと、簡単な和英索引までついている。初歩の英作文では、和英辞典で引いた語句をむやみに使うよりも、知っている語句をうまく使いこなした方が自然な英文になる場合が多い。正確な英文を作成するには、和英で引いた語を英和で引き直す必要もある。高校初期の学習では、電子辞書の中の本格的な和英辞典を使わなくても十分なのである。

■必要に応じて電子辞書へ移行

上記のように、教科書を中心とした高校入門期の英語学習では、実用的な紙の辞書での学習が効果的だと思われるが、学習のレベルが上がってくるにつれて、物足りなくなる生徒も出てくるであろう。必要に応じて電子辞書に移行するのは、今の時代、自然な流れでもある。ただし、辞書には豊富な情報が入っていて、電子辞書ではそれらが階層構造の奥に隠れていることを認識していることが大切である。その上で、英語学習の上級者には、英英辞典も引いて語義の感覚をつかんでほしいし、より複雑な内容を書きたい場合は本格派の和英辞典も時には必要になるだろう。その時こそ電子辞書の登場である。私も、2年生の後期からは授業時に使用する辞書を自由化した。電子辞書の『ジーニアス』、紙の辞書の『ジーニアス』等の学習用中辞典、引き続き『プラクティカル ジーニアス』等、生徒たちは自分の好みとレベルに応じてそれぞれの選択をしている。

■終わりに

以前、所有している英語の辞書について、紙か、電子辞書か、どこの出版社の何という辞書かをクラスでアンケート調査してみた。電子辞書の場合、メーカーと機種名はわかっているが、中身の辞書の名称や出版社名がわからない者がいた。また、「辞書持ち込み可の英語の試験も存在するんだよ」という話をしたら、「それでは、みんな百点になってしまう。」と真顔で言った生徒がいた。これは極端な例だとしても、未知の語の意味を調べるためだけに辞書が存在すると思っている生徒は多い。「万能の電子辞書があるのに、今時紙の辞書を薦めるのは懐古趣味の英語教師の戯言だ」という誤解を受けないよう、電子辞書の利点は率直に認めながらも、本格的に辞書を使い始める高校学習初期における紙の辞書の有用性を、今後も訴えていきたいと思う。

(おざわ みきお・東洋大学附属牛久高等学校教諭)